

## 令和6年度第3回 長野市上下水道事業経営審議会 議事要旨

【開催日時】 令和6年9月30日（月） 13時30分～15時30分

【開催場所】 長野市役所第二庁舎8階 282会議室

【出席者】 審議会委員 14名（参考9名、リモート5名）

事務局 長野市上下水道局 16名

【公開区分】 公開

### 【議 事】

（議事事項）

- (1) 水道ビジョンについて
- (2) 水道ビジョン・水道事業経営戦略の改定（素案）について
- (3) 財政推計・今後50年の経営見通しについて

事務局から説明

質疑応答

○ 委員

・資料1の有収率について、平成25年度の実績は88.3%であり、令和5年度の実績は85.5%である。下がっている理由を教えてほしい。また、資料2では令和9年度の有収率の目標を90%としているが、これは達成可能なものなのか。

○ 事務局

・漏水調査やそれに基づく修繕も行っているところであるが、修繕をしても有収率の向上に結びつかず下がってしまうことがある。今後については、令和4年度から人口衛星を使ったデジタル技術による漏水調査を導入し、今年度から老朽管の判定についてもAIを導入しており、漏水調査や修繕工事の効率が非常によいことから、有収率の向上が見込めるため高く設定している。

○ 委員

・資料2について、一人当たりの企業債残高がおおむね10万円となるよう算出とあるが、10万円については何か理由のある数字なのか。

○ 事務局

・（過去の）審議会でご審議いただいたことではあるが、今後人口減少が見込まれる中で、今のままの企業債残高であると1人当たりの負担が増えることとなる。世代間格差を生まないための目標値として10万円と設定している。

○ 委員

・法定耐用年数を1.5倍にして推計しているが、これは一般的な話なのか。

○ 事務局

・過去の実績として1.5倍程度は使っている。このため、更新計画については1.5倍をもとに推計している。我々の認識としては耐用年数の1.5倍は使えるというもの。

○ 委員

・今回の算定期間は問題無いが、次回の算定期間では推計利益が前回の推計利益よりも下がってしまう、問題ないのか。

○ 事務局

・資料であるが、今回の算定期間では目標利益を上回る。次回算定期間の後半では、推計利益が目標利益を下回っているものの、トータルでは上回るということをお示ししたかったという趣旨で作成したもの。将来的には、定期的な見直しが必要となってくると思われる。

○ 委員

資料2について、有収率が未達成であるにも関わらず、新規に目標が設定されており、原因分析の記載

が見られない。本来、目標設定にはPDCAサイクルがあるはず。この資料では、それが見られないと思われる。

○ 事務局

・有収率の部分は記載を改善したい。

○ 委員

・この水道ビジョンは、上水道の広域化を行う前提で作ったものなのか。

○ 事務局

・水道ビジョンと経営戦略については、算定を含め、今の水道事業体として継続していくことを前提として作ったもの。広域化については検討を進めていくということで記載をしている。

(報告事項)

(1)水道事業広域化について

事務局から説明

質疑応答

○ 委員

・今回の広域化の協議の中で、下水道を広域化し、一体化するという要素もあるのか。

○ 事務局

・今回の広域化の協議は上水道だけである。ただ、下水道についても県の流域下水道はあるものの、上田は現在入っていないので、その部分について研究しましょうという趣旨のもの。

(2)川合新田水源地周辺における地下水調査について

事務局から説明

質疑応答

○ 委員

・(調査の結果) 浅い井戸が獣目だという結果であり、その対策の中で井戸の設置があるが、深い井戸、5号6号と同じくらいの深さの井戸を掘った場合、水量の確保は大丈夫なのか。

○ 事務局

・有機フッ素化合物が増えているのは水源北西の浅い部分である。資料の「井戸の設置」の中にも「水源地内に新設」という案がある。井戸を新設する場合、場所と深さをどうするのかという話になってくる。

深い井戸が3本になると、他の井戸にも干渉してしまう可能性もあるのだが、余力が無いという問題もある。3本掘って2本動かしながら1本を休ませるという方法もある。そういったことも含め検討したい。

○ 委員

・費用対効果の問題もあると思う。(深い井戸を) 新設して水量を確保し、予備も生まれる。浅い井戸を活用し浄水施設を設置して、その施設をメンテナンスするとなれば費用も掛かる。できれば深い井戸を新設した方がよいと考える。

○ 事務局

・井戸を掘るという方法以外にも水運用の変更という対策もある。川合新田水源から配っているエリアを狭めることによって、負担を減らすという対策である。そういったことも併用して考えていきたい。最終的な方針については季節変動や、色々なデータを調査した結果を見ながら検討していきたい。

○ 委員

・川合新田水源の2号、5号と6号のみを活用して水運用計画を変更し、市全体で考えて必要水量を確保すれば、調査等に係る費用も掛からなくなると思うが、この水源がなければ、長野市の水運用はできないのか。

○ 事務局

・川合新田水源は、水量・水質的に極めてよい水源である。また、あれだけの規模で人が常駐する必要が無いことから、人件費がかからず費用面でも優れている施設である。

そういう中で、通常24,000トン取水できるところを18,000トンしか取水できていない。そういう中

でも今運用はできている。また、取水ポンプを一日4本動かしているが、20時間稼働し4時間休ませている状況で負荷をかけている状態であるので、予備の井戸をもう一本掘って余力を作りたいという考えはある。

○ 委員

- ・この水源地に振り回されている印象があるのだが。

○ 事務局

- ・水運用計画の変更により、この水源地から配っているエリアを狭める検討もしている。狭めることでこの水源に係る負荷を減らしていきたい。

○ 委員

- ・井戸を掘るにも年単位で時間がかかる。広域化の検討をしていく中で、しばらく現行の水運用ができるのならば、広域化で上田から水が来れば費用をかけずとも十分なのでは。

○ 事務局

- ・今後の広域化に係る水運用計画の中で検討する話になってくる。今後、これから調査の中で見えてくるものもあるので、そこで検討していきたい。

○ 委員

- ・広域化の資料の中で、廃止予定の浄水場があるのだが、そこを廃止しなければ川合新田水源を補えるという考え方はないのか。

○ 事務局

- ・(経年等により) 廃止予定の浄水場は夏目ヶ原浄水場と往生地浄水場である。川合新田水源は平成12年稼働であり、比較的新しくまた、水量もあるので極力活用したいという考えはある。

○ 事務局

- ・広域化の話が出たので補足だが、広域化により、今まで単独で運用していた各浄水場を水道管で連絡することができ、お互いに水の運用ができるようになる。なおかつ千曲一坂城間の水道管を二重化する計画であり、災害に強くなるほか、お互いの浄水場の能力を有効活用できるようになる。

夏目ヶ原浄水場や往生地浄水場も今すぐには廃止できないのだが、こういったことも含めて総合的に検討してまいりたい。